

<< 注意報 >>

岡病防第4号

平成31年4月23日

各関係機関長殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第1号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成31年度病害虫発生予察注意報第1号

平成31年4月23日

岡山県

病害虫名 **モモせん孔細菌病**

1. 発生が予想される地域

県下全域

2. 発生の蔓延が予想される時期

4月下旬以降

3. 予想される発生程度

多

4. 注意報発令の根拠

- (1) **4月19日の巡回調査における春型枝病斑(図1)の発生圃場率は50.0%(28圃場のうち14圃場で発生)**で、平年値(5.0%)より高く、注意報を発表した昨年同時期と同じ50.0%である。一昨年以前の13年間では4月時点での発生を認めておらず、**発生時期も昨年同様極めて早い**。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 前年のモモせん孔細菌病の発生(図2、3)は平年より多く、越冬伝染源量が平年より多かったと考えられる。
- (2) 発病枝は伝染源となるので見つけ次第除去し、処分する。また周辺の発病葉もつみ取る。
- (3) 果実への感染を防止するため、発生園では早めに袋かけを行う。袋かけは、下記の薬剤を散布後速やかに行う。
- (4) 病原菌は葉や果実の自然の開口部(気孔など)や傷口から侵入するので、風当たりの強い圃場では防風ネット等の防風対策を施す。
- (5) 平成31年度植物防疫情報第1号(4月5日発表)参照。

【主なせん孔細菌病の防除薬剤】

(H31. 4. 22現在)

薬剤名	農薬使用基準			成分名	FRAC コード 注3)
	希釈倍数	時期	回数		
ストレプトマイシンを含む剤					
ストマイ液剤20	1,000～2,000倍	収穫60日前まで	総使用回数 2回以内	ストレプトマイシン	25
アグレプト液剤、同水和剤	1,000～2,000倍			ストレプトマイシン	25
ヒトマイシン液剤S	250～500倍			ストレプトマイシン	25
マイシン20水和剤	1,000～2,000倍			ストレプトマイシン	25
アグリマイシン-100 ^{注1)}	1,500倍			オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン	41・25
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	オキシリニック酸	31
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内	バリダマイシン	U18
マイコシールド ^{注1)}	1,500～3,000倍	収穫21日前まで	5回以内	オキシテトラサイクリン	41
マスタピース水和剤 ^{注2)}	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—	シュードモナス ロデシア	未

注1) アグリマイシン-100とマイコシールドは同じ有効成分（オキシテトラサイクリン）を含む。

オキシテトラサイクリンの総使用回数（5回以内）に注意して散布する。

注2) マスタピース水和剤は微生物殺菌剤であるため単用が望ましい。

注3) FRAC(<https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/>)による農薬有効成分の作用機構の分類。

同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**この時期、早生品種では薬剤の使用時期（収穫前日数）に十分留意する必要がある、特に早生品種との混植園での薬剤散布時には必ず確認する。**

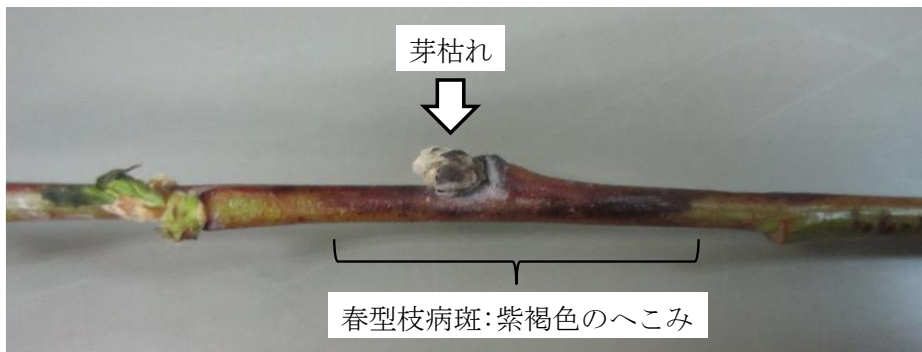


図1 春型枝病斑



図2 葉の症状



図3 幼果の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

